

## 中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	日本経済の根幹を担う経団連の役割について
調査日	2024年10月30日(水)
調査先	一般社団法人 日本経済団体連合会
担当 CVS	片岡良臣 松橋由里 丸山航汰
授業科目/学部企画名	企業訪問
参加学生数(学年)	17名(1年生7名、2年生10名)
調査趣旨・目的	経団連会館を訪問し、経団連が持つ理念や担っている役割について多様な視点から学ぶ。
調査結果	<p>今回、大手町にある経団連会館(以下、経団連)の経団連会館を訪問し、産業技術本部長の小川様、本部員の森様、滝本様からそれぞれお話をお聞きし、経団連についての理解を深めた。終始明るく気さくにお話して下さり、また難解な内容の部分は噛み砕いてご説明していただいたため、私たちは経団連という団体についての理解をより深めることができた。</p> <p>小川様からは主に、経団連が担っている役割や日本経済の動向について詳しくご説明いただいた。経団連は、各企業から受けとった要望を集約し、経済界の総意として政府や省庁に提言することを主な事業内容としているという。また、経団連は官と民の間に立ち、両者をつなぐ橋渡しのような役割も担っているのだそうだ。</p> <p>森様からは、政府や省庁への政策提言について、スライドを用いながら説明していただいた。政策提言は、企業や大学への調査・ヒアリングで具体的なニーズを集め、取りまとめや文章化を経て建議や提言を実施するという。そしてその後、提言が政策に反映されているかを確認し、フォローアップを行うのだそうだ。</p> <p>特に、ヒアリングと提言の取りまとめのプロセスを繰り返し実施することで、提言内容がより洗練されていくのだという。また、ご自身の体験談とともに現地視察の様子であったり企業の方とのオフィシャルな場以外での交流の重要性を生き生きとお話されていて、森様のお話を通して、訪問前はどちらかというと堅いイメージを持っていた経団連という団体の全く新たな側面を知ることができた。</p> <p>滝本様からは、各部署の役割について具体的にお話いただいた。例えば、国際標準戦略本部では、環境エネルギー、バイオエコノミー、次世代通信技術、レジリエンス・防災、サービスの5分野を重点分野として設定し、グローバル市場の創出を目指しているのだという。また、これらの分野を通じて、グランドデザインである「Society 5.0 for SDGs」の実現を期待するとともに、世界へ向けた日本特有の「価値」の発信にも取り組んでいるのだそうだ。</p> <p>企業訪問の終盤には、質疑応答の時間を設けていただいた。「経団連で働くうえでのやりがいはなんですか」という学生からの質問に対し、「経団連の事業は長期的なプロジェクトが多く短期では成果が見えづらいが、それでも確実に日本を良い方向に変えていると実感できる点」とおっしゃっていたことが特に印象に残った。お話の中で経団連での仕事を、「社会を変えられる仕</p>

事”と表現されており、終始言葉の端々から、社員の方のご自身の仕事に対する情熱や誇りを肌で感じる事ができた。また、質疑応答の際の社員の方々の、素早く的確、かつ洗練されたご返答にも深く感銘を受け、私も今後社会に出るまでに応答力を少しでも磨いていけるよう、大学生活において自らの成長に繋がる機会を率先して探し、実行していきたいと強く感じるきっかけとなった。

今回の訪問で経団連の方々の仕事に対する高いモチベーションや熱量に触れることができたことは、私たち参加学生にとって良い刺激となっただけでなく、「社会で働くこと」の意義について考える貴重な機会にもなった。

#### ※調査時の写真

#### 小川様のお話を聞く学生



お礼のお土産を渡す学生と社員の方々(左から小川様、森様、滝本様)



最後に社員の方々と集合写真を撮りました！貴重な機会を設けてくださりありがとうございました！

